



求められることがあります。

その時には、  
まず、家計をどのようにしたいのか  
具体的に考えていることを伺います。

近頃は、すでに新婚の時代に、  
遠く先の老後の生活が「楽」になるために、  
色々と考えている方々もみえます。

とても良いことだと思います。

老後の生活については、  
いつかは夫婦で考えなくてはなりません。

そこで今回は、  
共稼ぎ夫婦にぜひ考えておいていただきたい、  
老後の生活の準備について綴ってみました。

---

お互いの収入を把握しておく

---

老後の生活に入れば、

通常、公的年金が主な収入となり、

給与収入の時代と変わって、  
収入額が少なくなる分、  
夫婦の年金額を合算して  
生活費にしていく家庭が多くなるでしょう。

この時期になって、  
初めて、相手の収入全額を知る家庭もあります。

現役時代は、夫婦お互いの収入の  
大体の金額は知っていても、  
詳しく知っている夫婦は少ないようです。

よく夫婦の給与が振り込まれる銀行口座とは別に、  
家計専用の銀行口座を開設して、

毎月、夫婦で取り決めた金額を、  
各々その口座に入れて生活をする。

または、生活費は夫の給与から、  
妻の給与はすべて貯蓄する。

その他にも、  
さまざまな方法を夫婦で話し合っ  
て、家計を形成して見えるでしょう。

ただ、  
夫婦お互いの収入を知らないまま過  
ぎしていると、老後の生活が大変な  
ことになりかねません。

---

貯蓄の考え方は夫婦違うかも

---

お互いの収入を知っておくこととは別に、

私もこのメルマガで、  
お話したことがあります。

住宅購入の頭金など、

将来、まとまったお金を準備する  
ために貯蓄をすることが必要なこ  
とは言うまでもありません。

しかし、貯蓄が必要なことはわか  
っていても、

貯蓄の考え方は、  
育った家庭環境によって、  
夫婦同じではないことがあります。

貯蓄をすることが当たり前の家庭  
では、その家で育った子どもも  
当たり前のように、

将来必要なものを購入するた  
め、

また、家庭によっては、

無駄にお金を使わないために  
お金を貯めることに  
何の苦痛を感じません。

夫婦ともに  
そのような環境に育った家庭であれば  
自ずから、  
夫婦の貯蓄を始めることができるでしょう。

しかし、夫婦のどちらかが、  
また両方が、  
貯蓄に興味のない家庭に育った場合は、

お金を貯めることに  
抵抗感を持つかもしれません。

貯蓄への考え方が違う場合、

夫婦で話し合い、

お互いの両親の貯蓄方法を参考にしながらも、

お互い夫婦で納得できる方法を決めて、  
貯蓄を始めるべきでしょう。

---

お互いに自立は可能

---

あえて万一のお話をしておきますが、

夫婦といえども、  
気の合うことはあっても、  
お互いに知らない部分もあるでしょう。

特に「お金」のことで、

お互いの意思疎通ができないまま  
生活を続けていくと、

貯蓄に限らず、

お互いの考え方の違いが大きくなるばかりです。

また、給与収入額を夫婦で、

全額オープンにしていなければ  
(もっとも全額オープンにするかは  
議論の余地がありますが)、

老後の年金生活に入っても、

お互いの年金受給額を知らないまま生活を  
することになりかねません。

私の相談者の中には、  
夫の年金受給額知らないまま  
生活をしている方もいました。

しかし、現在のように共稼ぎで、  
女性もフルタイムで働き、  
定期的に貯蓄をしていけば、  
公的年金の受給を受ければ、

老後ひとりで暮らしていくことは、  
そんなに難しい状況ではありません。

子どもが独立後、  
いつまでも、  
自分の考えに反する生活を強いられることなく、  
熟年離婚も可能な世の中でもあるのです。

---

夫婦であることの幸せ

---

私が旅行会社に勤務していたころ、

熟年の夫婦ほど、  
お土産を買うときでも、

小物は奥さんが、  
高価なものはご主人が支払いをしていました。

お互い家計を知っているからの光景です。

確かに、自分で稼いだお金は、  
ご自身で使いたいでしょ。

現役中はそれでよいかもしれません。

しかし、何十年と続けてきた、  
お金の使い方を、

老後の生活の入って  
年金生活になったからといって、

急に生活費を減らすなど、  
変えることは困難でしょう。

もしできたとしても、

夫婦ともに  
こころの負担は計り知れないものです。

お互いを信頼して、  
お互いの収入額は、  
定期的公開しあって、

家計収支や貯蓄額の点検もしていくのが、

共稼ぎ夫婦の

老後の生活の準備であり、

いつまでも  
夫婦円満である秘訣と思うのであります。

\*\*\*\*\*:  
■「人生の添乗員 (R) 」からのワンポイントメッセージ  
\*\*\*\*\*:

夫婦お互いの収入を

現役中は個々に管理して、  
老後は合算して生活する

老後の限られた期間で馴染まないと  
大変なことにもなりかねません

結婚する時から、  
対策を決めておきましょう！

\*\*\*\*\*

### ■人生の添乗員（R）牧野寿和のプロフィール

\*\*\*\*\*

日本で唯一「人生の添乗員（R）」を名乗れる

公正中立な独立系ファイナンシャルプランナー

開業 16 年目

1958 年 名古屋市生まれ、大学（東海大学卒業）以外は、名古屋で生活をする。

1982 年～2001 年 旅行会社に勤務。業務で世界各地を廻っていた時、  
日本の方と他国の方々のお金との付き合い方の違いを感じていた。  
そんな時渡米した折に、初めてファイナンシャルプランナーの存在を知り、  
日本でもこの業務の必要性を認識する。

2003 年 牧野 FP 事務所を創業。  
2018 年から牧野 F P 事務所合同会社を設立。

これまでに、延べ 900 件以上の様々な相談に対応。

現在は、相談者へのプランニングの助言と提案を主な業務とし、

相談者に、安心できる生活が送れるように、

丁寧な業務を心がけている。

<保有資格>

- ・ NPO 法人日本ファイナンシャルプランナーズ（FP）協会 CFP（R）認定者
- ・ 1 級ファイナンシャル・プランニング技能士（資産設計提案業務）
- ・ 福祉住環境コーディネーター
- ・ 総合旅行業務取扱管理者 など

<取材協力>

メ〜テレ（名古屋テレビ）「UP！」

<出版>

「銀行も不動産屋も絶対教えてくれない！  
頭金ゼロでムリなく家を買う方法」河出書房新社

<監修>

「空き家」に困ったら最初に読む本」河出書房新社

なぜ、「人生の添乗員（R）」なのか？

詳しいプロフィールはこちらから

現在、相談を受けている方は、名古屋市内はもとより  
愛知、岐阜、三重県、  
ご紹介をいただいて、首都圏や関西にも  
足を延ばす機会が増えてきました。

「人生の添乗員（R）」どこまでも行きます。

他人を気にすることなく、  
相談者ご自身にとって  
有益な提案を心がけています。

\*:

#### ■編集後記

\*:

こここのところ、  
「へそくり」という言葉を  
あまり聞かなくなりました。

夫婦といえども、

個々のお金は、  
ここで管理しているからでしょうか？



【人生の添乗員(R)】からのワンポイントメッセージ

来週もご愛読のほど、  
よろしく願い申し上げます。

「人生の添乗員」「人生の行程表」は牧野寿和の登録商標です

---

■ 【人生の添乗員(R)】からのワンポイントメッセージ

発行：

牧野FP事務所合同会社 代表社員 牧野寿和  
〒467-0823 名古屋市瑞穂区津賀田町2-86

■登録・解除は、ご自身でお願いいたします。  
こちらから出来ます。

<http://www.mag2.com/m/0001575058.html>

■本メルマガに関するご意見・お問い合わせはこちらまで  
お願いいたします

E-MAIL : [makino.fp@beach.ocn.ne.jp](mailto:makino.fp@beach.ocn.ne.jp)

---

牧野FP事務所合同会社 公式サイト : <https://www.makino-fp.com>

---

■記事内容に関してのトラブル等について当方では一切責任を負いかねます。  
ご自身の責任でご判断下さい。

---